

# はったん 八反遺跡 (第3次)

遺跡番号	211-029
調査回数	第3次
所在地	山形県東根市大字長瀬字八反
北緯・東経	38度28分9秒・140度21分33秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査面積	3,800㎡
受託期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査	平成25年5月22日～11月9日
調査担当者	高桑登(現場責任者)・長谷部寛・尾形知哉
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・水土里ネット東根村山・東根市教育委員会・村山教育事務所・山形県教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構	掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴
遺物	土師器・須恵器・石製品・陶磁器・木製品・金属製品・古銭(文化財認定箱数:58箱)



遺跡位置図(1:50,000)

## 調査の概要

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置する。遺跡周辺の果樹園や畑、水田の地割には最上川の旧河道の痕跡が残されており、一帯が最上川の氾濫原であったことがわかる。旧河道に沿って沼袋遺跡、長瀬本楯館跡等、古代から中世の遺跡が分布している。地元の伝承では、遺跡の周辺に壇状の地形が8箇所あったとされ、「八反」の地名の由来となっている。

調査区中央を横断する農道より南をA区、北をB区

としている(図1)。平成23年度にA区1面、平成24年度にA区2・3面及びB区1面の調査を実施した。平成25年度はB区2面及び農道部分に当たるC区1・2面の調査を実施した。

## 遺構と遺物

昨年度の調査ではA区2面の南半部に古墳時代から平安時代の竪穴建物、北半部に中世前期の溝や柱穴群が分布することが確認されていた。今年度の調査で溝や柱穴群が北側のB区2面まで分布していることが確認され、遺跡の北半部に中世前期の集落が展開していることが明らかとなった。遺跡の立地する自然堤防上で、河川跡に近い微高地上に古墳時代から平安時代の集落が展開し、北側のやや低い土地に中世前期の集落が立地する。

座標北より15～25°西に傾く南北方向の溝と、それらにほぼ直交する東西方向の溝が掘られ、溝の内側に柱穴や井戸が集中する。集落の区画や排水のために掘られた溝と考えられる。

B区の中央部では南北約10m、東西約20mの範囲を囲む不定形の溝が検出された(写真3)。この溝の内側には整地の痕跡が認められ、直線的な石列が見つまっている。宗教的な施設の可能性がある。この周溝状の遺

構から北に約 20 m の地点から、一括出土銭が出土した。  
(写真 2・8)

一括出土銭は、直径約 50cm、検出面からの深さ約 40 cm の土坑から、曲物に納められた状態で出土している。曲物は直径約 30cm、高さ 15cm、上部は重ねられた 2 枚の折敷おしきで蓋されていた。側板の一部が破損していることから、空の状態さしで曲物を埋め、その後に銭を納めたと考えられる。古銭は緞さしの形状が完全に遺存している。5 本の緞銭を一単位として、外側から内側に向かって渦巻状に緞銭を納めた様子が見て取れる。最上段には 16 本の緞銭が確認でき、1 緞の枚数は 88 枚から 100 枚とばらつきがある。緞の隙間から 2 段目の緞が確認できることから、少なくとも 2 段目までは緞の状態であることがわかる。紐は遺存していないが、緞の端部に植物質の痕跡が認められる。曲物を含めた重量は 34kg で、重量や曲物の容量、最上段で確認できる枚数等から、9,000 ～ 10,000 枚の古銭が納められていると考えられる。古銭が出土した土坑の周辺には柱穴が多く分布しているが、建物の配置や一括出土銭との関係は、現段階では不明である。

溝や土坑、井戸からは、中国産の陶磁器や古瀬戸、こせと珠洲、在地産の瓷器系陶器など 12 ～ 14 世紀を中心とした遺物が出土している(写真 7)。在地産の瓷器系陶器、越前、珠洲が一括して出土した遺構が注目される(写真 6)。壺、甕、挿鉢つぼ かめ すりばちといった生活用具の他、茶入や合子、ちいれ ごうす碇すずりなど、一般の集落には少ない特殊な遺物が目立つ。

第 2 面の遺構検出面は礫層に覆われている。また、堆積土に砂礫層を含む井戸等が検出されていることから、第 2 面で確認された中世前期の集落は洪水によ

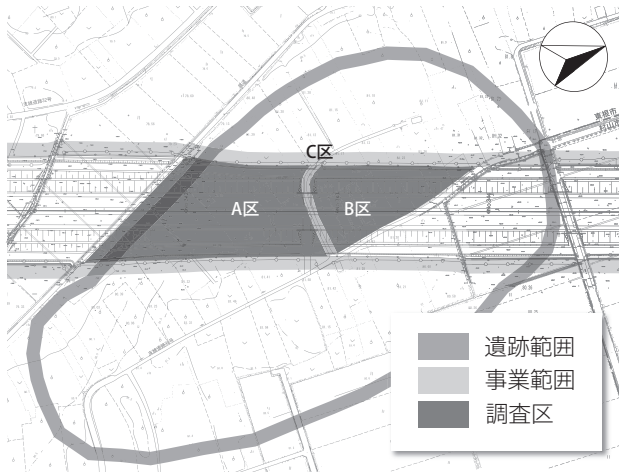


図 1 調査区概要図 (1/5,000)



写真 1 遺跡近景 (南から)



写真 2 一括出土銭

て廃絶したと考えられる。礫層上面で中世後半の埋葬施設を中心とした遺構群を検出している。

### まとめ

八反遺跡の北半部には、溝に区画された中世前半の集落が展開していることが明らかとなった。不定形の溝に囲まれた施設や特殊な遺物の存在等から、宗教的な性格の強い集落であった可能性がある。一括出土銭の発見も注目される。礫層の存在から、集落は洪水によって廃絶し、その後この一帯は葬送の場へとその性格を変えたと考えられる。

山形県内で 1,000 枚を超える一括出土銭は不時発見等の例を含めて、20 例程度が確認されている。発掘調査で見つかったものとしては酒田市梵天塚遺跡で見つかった 1,758 枚の例がある。今回確認された一括出土銭は、容器や緞の遺存状態が極めて良好であることから、銭の取り上げは行わず、現状のまま保存することを検討している。



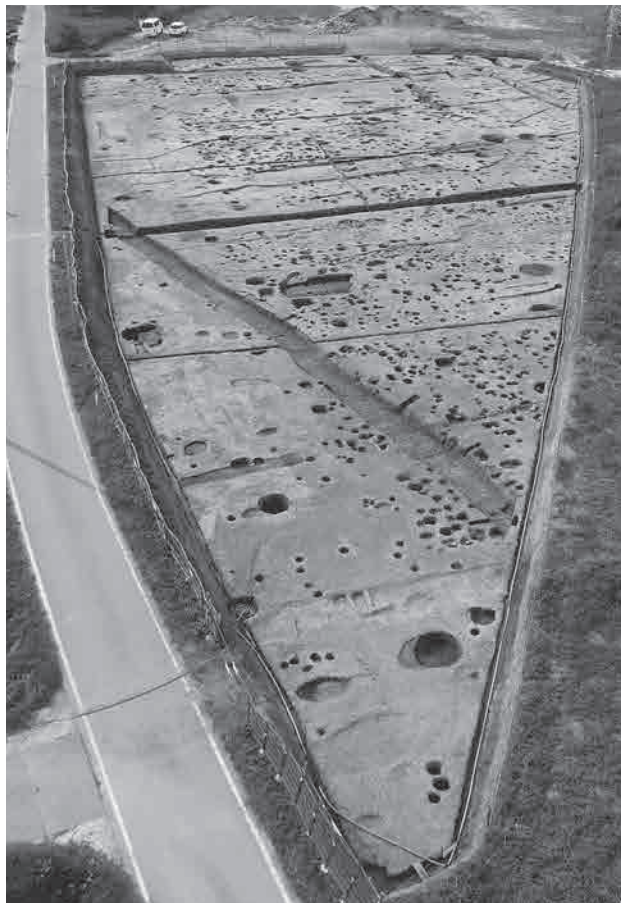
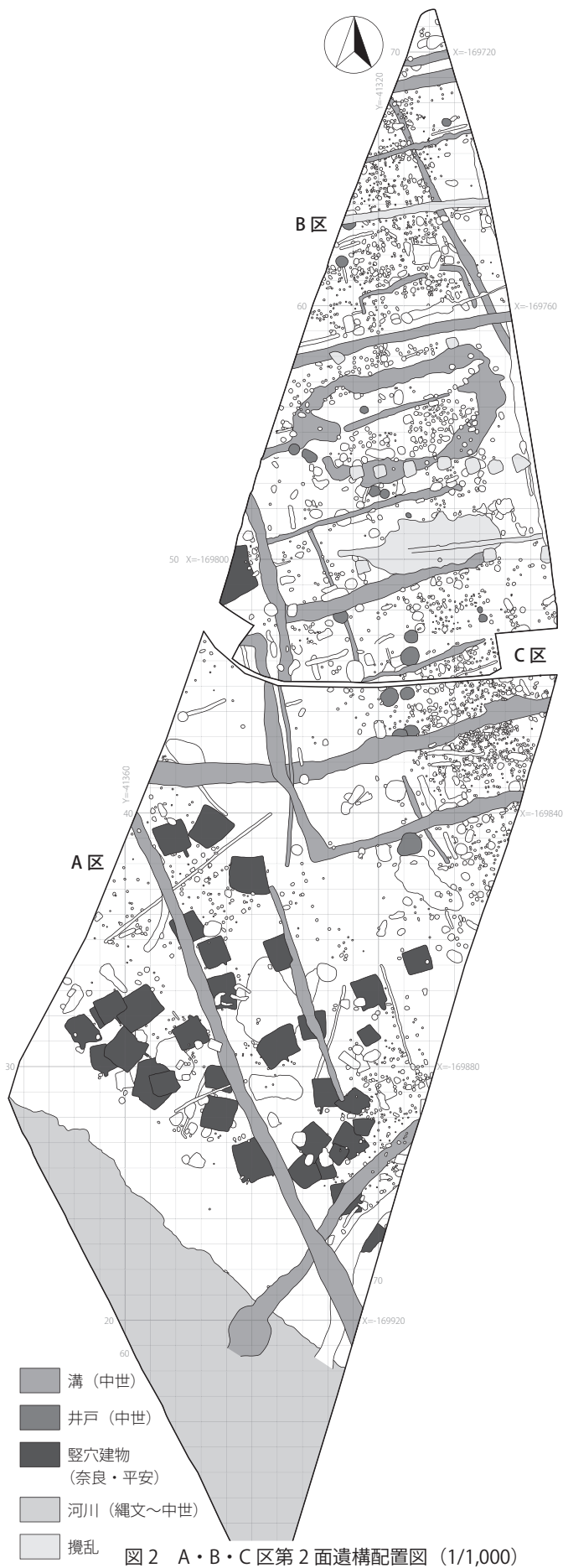


写真3 B区2面全景 (北から)



写真4 B区2面中央部周溝状遺構 (上が南)



写真5 五輪塔出土状況 (北西から)





写真6 瓷器系陶器一括出土状況（南から）

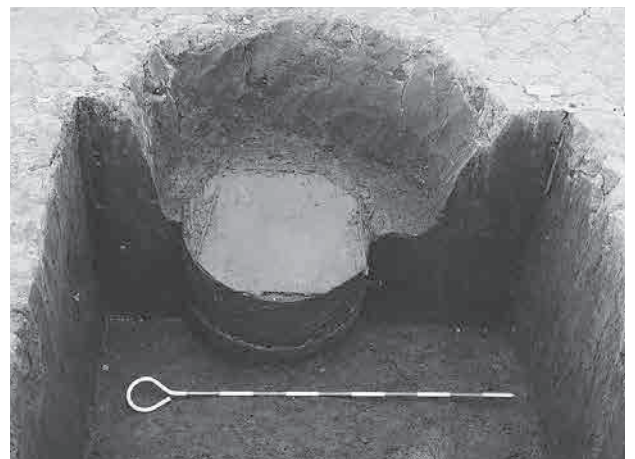
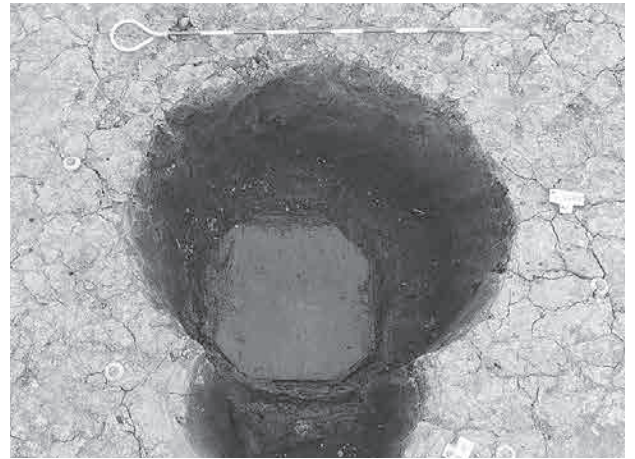


写真7 出土遺物



写真8 一括出土銭出土状況（西・北西から）